資料５

（独）情報通信研究機構

サイバー攻撃解析協議会における取組について

独立行政法人情報通信研究機構は、前中期研究計画から約7年にわたり、インシデント分析センターnicter の研究開発を実施。

nicter は、我が国の情報通信ネットワークにおいて、広域に影響を及ぼす大規模なサイバー攻撃を迅速に把握・対応するため、実際には使用されていない約１９万のIPアドレスである「ダークネット」に到来する通信をセンサで観測するとともに、ハニーポット（囮PC）で収集されたマルウェア検体の超高速自動解析を実施。

その結果、ネットワークで今まさに起こっている「現象」を俯瞰的に把握するとともに、その「原因」となるマルウェアをリアルタイムで特定可能。

NICT は、これらの分析結果等の一部について、研究者や一般の方にわかるような形で情報提供を開始しているが、本協議会においても、nicter で得られたサイバー攻撃情報、マルウェア情報などを共有予定。

協議会の参加メンバーは各々の任務に基づき、サイバー攻撃への対応に日々取り組んでいるが、NICT は協議会において、高度な研究開発能力を活かし、実際にインシデント対応に直結している関係機関と協働していく。協議会での活動成果は、NICT の研究開発の更なる展開につなげていくとともに、政府機関を通じ、広く関係機関に提供されることで、オールジャパンの体制で我が国の安心・安全な情報通信環境の維持につながっていくことを期待。